
六つ星

十六夜 白爛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

六つ星

【Nコード】

N3909Z

【作者名】

十六夜 白爛

【あらすじ】

2012年から20年後、1人の女性はこの神奈川にギルドを建設。宇宙から来たなどの使者により地球は変わった。恐竜が生き返り、動物が進化したり、架空の動物が現われたり。な

ぞの使者のせいでこの世はメチャクチャ。

そこで女性はギルド建設後、なぞの使者と戦うための道具、武器もそろい、人工的な魔法を手に入れた。

しかし自分1人だけだと適わないと決めた女性は人を集める。

そして集まったのは槍、剣、銃、弓、体が優秀な男女が5人が立ち

上がる。女性をいれて6人のギルドは名を六つの星^{ハキサユク}。ここに今、壮
絶な戦いが始まる。

(前書き)

短編作ってみました。

どうぞ、読んでください。

読み終わったら後書きを見てください。

2012年から20年後、地球は変わった。

突如恐竜が蘇り、宇宙人などが来るようになった。そのきっかけは宇宙からの使者 アレスとマルス。2人は国は違えど同じ戦争の神と言われている。

そして同日、黒髪でロングストレートの1人の女性はギルドを建設する。アレスとマルスを潰すために

彼女はギルド建設後、人を集めた。1人ではアレスとマルスに勝てないのを知って6人の騎士がこのギルド シックスターにやってくる。

槍の達人 如月 麻衣、剣の達人 綾瀬 京、銃の達人 アニイ
ウォーカー、弓の達人 海成 涼香、体術の達人 椿原 乃千、
そしてギルドマスター 之ノ峠 紅葉である。

ギルドも見た目は小さいが、中に入ると見た目とは裏腹にかなり広い。

「紅月流奥義 剛火剣乱!!!」

「ぬおっ!」

早朝5時、道着姿で髪色は茶色、髪は少し長めで少したれ目、瞳は青の乃千と同じく道着姿で髪色は紺、髪は後ろが長くて結んでいる、瞳は同じく青の京は模擬戦をしている。

剛火剣乱とは、文字通り剣を相手に突く技。京の得意技である。その剛火剣乱をギリギリで避ける乃千は手と足を巧みに使ってコンボを繰り返す。

「どうや、ウチの体術は京の剣を打ち返す！　ウチに適うヤツなんかおらん」

「ならこれはいかがかしら？」

1人の女性が物陰から乃千めがけて銃を撃つ。髪は少しウェーブが掛かっていて、金髪、燃えるような赤い瞳をした女性。お嬢様言葉が特徴のアニィ＝ウォーカー。彼女は乃千めがけて銃を撃つと、その銃の弾が見えるかのように避ける。

「あつぶないなあ、ウチやなかったら死んでたで。つか、ホンマは殺そうと思っただやろ」

「あらあら心外ですわ、ワタクシはあなたを試そうと」

「ハッ、何が試そうとや、そもそも自分はクエストに行ったんやないか」

「今帰ってきた、と言えばお分かりかしら？」

オホホと笑うアニィとフフと不気味に笑う乃千は笑いながらも睨み合う。なんとも器用な人達だ。一方京はやれやれと首を振る。

「アニィ、無事だったのね！」

「ワタクシを誰だと思っっていますの？　あんなクエスト楽勝ですわ。それと出来れば抱きつくのを止めてくだらない？」

「アニィは麻衣の嫁！　だから離さない！」

アニーに抱きついていているのは如月 麻衣、茶色い髪の毛でツインテールが特徴。そしてギルド内元気があるのが彼女だ。服装はかなりポーンツシュ。

「元気が一番……」

「だから涼香姉さんは気配なく来ないでください！ 正直ビビります」

京に姉さんと言われているのは海成 涼香、影が薄くてたまに存在が忘れられるが、後衛の役目はかなりのものである。髪は少し紫のロングストレート。普段着にも限らず戦闘でも和服。このギルドでは一番年上だ。

「つか、マスターはどこにいるんだよ。結局全員揃ったのにマスターがいなきゃダメじゃねえか」

「京、そう焦るでない、マスターも何か考えておるんや。そして」

乃千が何か言おうとした時、乃千の頭スレスレに石が通る。ほんの数センチ下だったら乃千にあたっていた。

「だああああいち！！！！ また私の下着盗もうとしたわね！ 今日という今日は許さないわよ！」

バスタオルを巻いて出てきたのはこのギルドのマスター、之ノ峠紅葉。胸はCぐらい、少し男勝りなしゃべり方をしている。

そして何より乃千は紅葉に一目惚れして以来紅葉にベツタリなのだ。

本人も断ればいいものの、紅葉はそのまま。

「いったあゝ……なんやウチが紅葉の下着を盗んだってことかい、ウチ今回未遂や」

「未遂……と言つ事はやる予定だったのよね」

ギラリと見る瞳が変わる。何か食べられそうな予感が頭の中をかきめぐる乃千。一瞬でも気を抜けばやられると思つたのか、紅葉に対して攻撃態勢に移ってしまった。ハツと我に振り替えるときにはすでに遅し、紅葉のパンチが乃千の顔面に直撃。

「あらあら、紅葉さんも腕が上がりましたわね」

「このバカのお陰だけどね」

つと、そこへ紅葉のケータイから1つの電話が届く。この国の大統領領からだ。それはこのギルドへの緊急依頼。普段の依頼はボードに貼つてあるが、かなりの依頼だと大統領直々に電話が下さるのだ。その依頼は、アロサウルスが進化したアロサウルス 亜種の討伐である。

「今回の依頼はかなり手強い、私たち6人で行く」

「フルで討伐か……かなり久し振りやな」

「ああ、腕が鳴るぜ！」

<

「麻衣はかなりテンションが上がっている、誰にも負けないわよ」

「……（コクン）」

「ワタクシの華麗なる技、篤とごらんあれ！」

紅葉、乃千、京、麻衣、涼香、アニーが武器を持って出勤する。6人の移動手段はホンダのCR-ZとCR-Vをモチーフにした車。ボディは黒の塗装をしてあるので、夜になると目立たなくなる。移動には最適な車だ。

「飛ばす……」

「俺も姉さんに負けないように飛ばす！」

CR-Zの運転手は涼香、CR-Vの運転手は京。2人は目的地の青森まで走る。しかし、ただ走ってはあまりにも時間が惜しい。紅葉はギルドと車にある仕掛けをした。それは誰もが夢を見た翼を付けること。そしてギルドには紅葉が持つボタンでドデカイ滑走路が出てくる。それを使って青森までひとつ飛びだ。

場所は移って青森、アロサウルス 亜種が町を破壊している。恐竜とはいえ亜種、油断は出来ない。

「デカイなあ、さすがアロサウルスの亜種や」

「乃千、まずは俺らで体力を削るぞ」

「京に言われなくてもやったるわ」

京は剣を上段構えをして、精神を集中させ、乃千も姿勢を低くする。

「乃千、俺の大技はかなりの時間がある。時間を稼いでくれ」

「おっしゃー!」

そういうと乃千はアロサウルスの脳天に向かってジャンプする。刹那、アロサウルスの額に踵落としを炸裂。

「もっどはいれっ猛怒裴劣!」

「G e e e e A a a a ! ! ! !」

怒っている。しかし乃千は攻撃を止めない、京の大技を成功させるために。

「どうや、ウチの実力」

「ナイスだ乃千、あとは俺に任せろ!」

京が大技を繰り出そうとしたが、アロサウルスのしつぽの攻撃で腹に直撃。

「ぐあっ!」

「乃千!」

紅葉達が乃千に近寄り、看病しようとしたが、アロサウルスがいるのを忘れて皆吹き飛んでしまう。幸い、全員軽傷で済んだが、立ち上がるには少し時間が掛かる。

「くっ、よくもこのワタクシに傷を……」

即座に涼香の放った矢がしつぱを貫く。あまり喋らない涼香は無言で矢を放し続ける。そして最後は紅葉の魔法でアロサウルスを滅する。

「踊りなさい、水ウォーターの鞭ウィップ!!」

紅葉が魔法陣らしきモノを出すと、そこから水の鞭がアロサウルスを襲う。

「ラスト、フレイムパレット!」

またもや魔法陣を出して、今度は炎の弾がアロサウルスに直撃する。

「G u u u……」

「はあ、はあ……クエスト……クリア……」

無理にでも足を使って体を起こす。クエスト完了の報告を大統領に話し、報酬を貰う。大金なので山脇が筋だ。

彼らは戦う、アレスとマルスが地上に君臨するまで、そして彼女は誓った、絶対この地球を壊させはしないと……

(後書き)

さて、短編を作りましたが、ここを使い、読んでくれた皆さんに質問です。

この短編を読んで、

『面白そうだから連載して欲しい』と思った方は、感想に追加で書き込んでください。

どうぞ、よろしくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3909z/>

六つ星

2011年12月13日10時45分発行